



2018年6月10日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 村井伸夫
編集人 / 永沼真理

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



YMCAキャンプ

【現代の課題・コミュニケーション】

若者の犯罪記事が後を絶たない時代になってきている。つい先日の新潟の少女殺人遺棄事件。犯した罪の大きさは計り知れない。それと同時にその若者がどのような幼少時代を過ごしてきたのか気になるのは私だけではないだろう。また、関西学院大学と日本大学のアメリカンフットボールの定期戦で起こった意図的な悪質なファール。監督、コーチから「やってこい」「潰して来い」と報道される日々の中、日本記者クラブで当事者の日本大学の学生が勇気と責任を持って開いた会見を聞いた。悲しかった、悔しかった。そこには指導者とのコミュニケーションはなく彼がレギュラーを確保するためには服従しか存在しないと感じた。日本大学の監督、コーチは指導者ではなく「犯罪者」と言えるだろう。勝利主義のプロスポーツの世界でもあり得ない。世の中の歯車が狂っていると思うのは私だけだろうか。

昨今インターネットに存在しないものは世の中に存在しないとも言われている。とても便利な世の中になって来ている。では、ネットにコミュニケーションは存在するのか？存在すると思う方が大方だと思うが、私は本当の意味でのコミュニケーションではないと考えている。人間はこの世の中で一番豊かなコミュニケーションを取ることが出来る動物である。そのコミュニケーションを育むのが「家庭」「幼稚園・保育園」「町内会」「学校」等のコミュニティーと言われる共同体。その共同体の中に間違いなく「YMCA」も属している。そのYMCAが人間教育手段として長年実施してきたキャンプが2020年に100周年を迎える。

【YMCAキャンプ100】

YMCAの記録に現われるキャンプは1882年アメリカのブルックリンYMCAの物が最初である。日本におけるYMCAキャンプの始まりは1920年大阪YMCAが六甲山麓で行ったもので、2020年日本のYMCAキャンプの歴史100年になる。仙台YMCAのキャンプの始まりは1924年(大正12年)にボーイスカウトがYMCAに設立された同年8月に塩釜市浦戸諸島の桂島で実施された「第1回少年夏季テント生活」が仙台YMCAの組織キャンプのスタートだった。それぞれの時代時代のニーズに合わせてながらこどもの長期休業期間中にキャンププログラムは展開されてきた。

【YMCAキャンプの目的とユースボランティアリーダー】

日本YMCAキャンプスタンダードでYMCAキャンプの目的を以下のように定めている。

- (1) 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける
- (2) 良い習慣を育て実践する
- (3) 健康のための知識を得て、自分の身体を守る方法を知る
- (4) 生活を豊かにする技術を学び、想像力を育む
- (5) 良き友人を作る方法を学び、互いの存在と生命を尊重する心を育む

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に広げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を広げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

- (6) 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を育む
- (7) 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う

YMCAのキャンプは自然に親しむこと、楽しむことのみならず、人間形成というYMCAの目的(こどもたちの生きる力を育む)を達成する方法であると言うことです。組織的に様々なトレーニングを受けた指導者が教育的配慮のもとに実施されているプログラムである。キャンプでは子どもたち同士がグループと言う小集団の中でリーダーから支援を受けながら一緒にプログラムをこなす、食事を共にし、一緒に寝泊りをする。人間が相手を理解するには共通の活動(プログラム)をこなすことが一番効果的で衣食住を一緒にこなすキャンプは人間形成を行う為の最善のプログラムといえる。

1995年に日本YMCA同盟主催で行われた「キャンプ75」で元大阪YMCA初代阿南海洋センター所長・元日本キャンプ協会会長の酒井哲雄氏が基調講演として「100年に向かうYMCAキャンプの主張」というテーマで話された中で、75年のYMCAキャンプは一体何だったのだろうか？と感じた時に象徴的に言う「人づくり」であったと述べている。

また、YMCAキャンプ100年に向かっては①キャンプは21世紀のライフスタイルの創造の場、②キャンプは自然や環境を考え、守る学習の場、③ボランティアリズムを体験し、実践する場と述べている。キャンプの神様と言われている酒井氏の言葉には重みがある。



【ユースリーダー育成】

今年も既にリーダートレーニングがスタートしている。YMCA理解から始まりリーダーの役割、グループワーク、応急救護法、プログラムマネージメント、コミュニケーション等の講義を実施し、その後キャンプに参加するリーダーは1泊2日の実技トレーニングに参加し、本番のキャンプを迎える。YMCAの役割にはキリスト教に基づいた青少年の育成でありボランティアの実践の場である。

今年YMCAは生まれ変わり、互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることを目的に、スローガンとして「みつかる」「つながる」「よくなっていく」を掲げている。

まさにYMCAのキャンプに参加し新しい何かが見つかり、気づきがあり、それに繋がりがながら学びがあり、自分が成長して行くのがYMCAキャンプである。私はキャンプでこどもたちに必ず伝えることがある。「(新約聖書:マタイによる福音書7章12節)人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である。」と。ひとりが「よくなる」と、社会や世界はきっと変わる。みつかる。つながる。よくなつく。

(健康教育部 / 堀越祥浩)

ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ 第43回 平和七夕の訴え 「平和七夕」飾り作り 参加者募集!!

仙台七夕祭りの初日8月6日は、「ヒロシマ原爆被災の日」です。

この日を忘れないために、仙台七夕に「ノーモア・ヒロシマ・ナガサキ」の竹飾りを飾り続けてきました。今年で43回目になります。核廃絶の祈りと共に7年前の3月11日の大震災で被災され、今なお苦難の中にいる多くの方々の一日も早い再起と復興の祈りを込めて飾りたいと思います。

「ひとりの願い、一羽の祈り」を形に!

1. 自宅で鶴を折ってくださる方

大きさ:市販の折紙の4分の1 (7.5cm×7.5cm)

折り方:たこ糸の長さは4m。鶴の頭は折り曲げず、羽は開かず、

3.5mのところまで、なるべく詰めながら重ねて糸を通す。

紙素材:折紙又は同程度の薄さの包装紙

2. 仙台YMCAでの鶴の糸通し作業、レイ作りに参加して下さる方

日程 5月15日～7月17日...毎週火曜日 午後6時～8時

7月20日～8月5日...毎日 午後2時30分～8時

※折鶴、糸、針はお届けします。油谷さんまでご連絡ください。

「平和を祈る七夕」市民のつどい 連絡先 代表:油谷 重雄

(Tel/Fax 022-378-5765)

《北島宏一氏を偲んで》

去る、4月20日に永年に亘り仙台YMCAの常議員及び学校法人仙台YMCA学園の理事・評議員としてご奉仕いただいた北島宏一氏の告別式が行われました。

北島氏は、1963年に仙台YMCAの主事として入社され、13年間勤務されました。その間、青少年のグループ活動、野外活動、レクリエーション活動の指導に当たり、1・2級建築士他国家資格取得の成人の夜間学校の開設・運営等専門技術者の育成・指導に従事されました。その後、社会福祉法人仙台キリスト教育院事務長をはじめ多くの児童養護施設の院長等を歴任され、常に弱きものの側に立ち、慈しみと愛をもって多くの人々に尽くされました。亡くなられた北島宏一氏が神様のみもとにあり、ご家族の上に神様の慰めと慈愛がありますように謹んでお祈りいたします。

(本部 小幡忠弘)

石巻広域ワイズメンズクラブ紹介

石巻広域ワイズメンズクラブ
会長 日野 峻

2016年5月28日「石巻広域ワイズメンズクラブ」がチャーターいたしました。東日本大震災の大規模な被災地であります石巻地区において設立された意義は大変大きいといわれています。先の大震災の発生に伴い、国内外からの各種支援活動を目の当たりにして、受動から能動へと自らが舵を切ること、地域の住民が自ら立ち上がり組織化し、人は幸せになるために生まれてきた(福幸)という理念・理想を実現させるために活動する同志が集まり結成されました。

「天の声、地の叫び、人の心」と言いますが、親クラブであります仙台的3つのワイズメンズクラブ、仙台YMCAの皆様はじめ、国内外のワイズメン、YMCAの皆様からのお力添えあつての当クラブ設立でした。あれから2周年経ち、先日ささやかではありますが、2周年記念例会がYMCA石巻センターを会場に行われました。メンバーによる手料理、自分の会社で作られた鯖寿司や日本酒、地元食材を使ったオードブルなど、みんなで美味しくいただきました。そして、何よりも仲間と和気藹藹とした楽しい雰囲気さらに美味しさを格別に豊かなものにしてくれ、心の栄養、明日への生きる活力になりました。

私たちのクラブは、20歳代から80歳代まで幅広い年代、様々な経歴や職業のメンバー23名が所属しています。石巻地方の土地柄、大震災で被災されたメンバーも多数おります。当該メンバーが希望する活動、支援等はそのまま被災された方々の想いや願いに通じることであります。その一例が「YMCAストレッチヨガ教室」です。2016年12月より新蛇田復興団地の集会場で2か月ごとに開催しています。仙台YMCA出身のインストラクター金森千穂先生がとても素晴らしくて、初回から欠かさず参加されているおばあさんがたくさんおられます。回を重ねるごとに参加される方が増えています。終わった後のお茶会も楽しみの一つになっています。この他、津波の教え石プロジェクト、被災地支援マグロ解体ショー、他地域から来て活動される方々の支援など、多岐にわたる活動、支援を行っています。



「石巻地方に来て下さい。
美味しいものを食べて下さい。
美しい景色を 街が変わる様子を
人の力を見て下さい。
人情に触れて下さい。」

「キリスト教理解」講座 第18回 「死」から自由に

日本基督教団 石巻栄光教会
牧師 川上直哉

1. イースターという季節

教会の暦で、一番大事な日とされているのは「イースター」です。イースターは「春分の日に訪れる満月の直後の日曜日」と定められています。ですから、イースターは必ず「春」のお祭りとなります。日本で春のことを「木の芽時」と申します。冬の間、姿を見せなかった芽が一斉に現れ出るように、この季節、持病が一斉に強く出てきがちとなります。そして、ご高齢の方は、逝去されることもある。

この春から5月の末までに、私は8回の葬儀に出ました。二週に一人程度、近親者を亡くしたことになります。「高齢社会」ということの実現は、こういうことなのかと、何か気づかされたような気がしています。そうしているなかで、はっと葬儀の意味に気づかされます。実に、人間の尊厳の確保が、葬儀において目指されている。もう苦情も意見も言えなくなった故人を前にして、その人生の価値が確認されること。その生涯が祝福されたものであったことを、神様の力に基づいて確言すること。それが、葬儀の大切な役割なのだと思われたい。そう気づいた時、イースターの意味ははっきり輝いて見える気がしてきました。イースターは、復活祭です。それは「死」に対する勝利のお祝いである。「死」に対する勝利とは何か。そのことを少し、考えてみたいと思います。

2. 人類と「噂」

科学の進歩は目覚ましく、20年前の常識の多くは今、覆されています。最新の研究によると、動物の多くは「言語」を持っているそうです。例えば、あるサルは「気をつけろ!ライオンだ!」という言葉を持っている。ただ、人間と違う点の一つあって、「気をつけろ!俺はライオンの精に守られている!」という言葉は、そのサルにも扱えないのだそうです。あるいは「言葉」を使って「見えるもの」と「見えないもの」を混ぜてゆくことが、人間と動物を分けている点なのかもしれません。「噂話」あるいは「虚構」の力を使えるのが、人間の人間たる所以なのだろうと、人類学者は語り始めています。

そのことを思う時、一つの「噂」が気になります。「死」についての噂です。「死ねばおしまいだ」という噂が、世界中で流行っている。それが本当かどうか、だれも確認したことがないのに、そういう噂が流れて、そしてそれに基づいた、つまり頓珍漢な「虚構」の中を、私たちは生きてしまっていたりする。

「死」に対する勝利とは、おそらく、この噂と虚構を乗り越えて、そこから自由になることを意味しているのではないかと、葬儀を繰り返しながら、気づき始めたように思うのです。

3. 「死」から自由に

新約聖書によると、「罪の報いが死」だといひ「神からの贈り物は永遠の命だ」とされます。普通の日本語に直すと「頓珍漢(あつべとつべ)な虚構の報いは死だ」けれども「死んでも生きる命」がある、となる。あるいは「頓珍漢(あつべとつべ)な虚構」にとらわれている人は「あつべとつべ」の奴隷だ、という言い方も出てきます。ここで「奴隷」というのは、ギリシア語で「デュウロス」といひまして、その意味は「何かの手段として、道具として、使い捨てられる人間」のことを言います。

「死ねばおしまいだ」という噂を信じてしまって、それに基づいて世界を組み立てると、そこから出られなくなる。だから、「それは嘘だ」ということを印象深く宣言する行事がイースターのお祭りだ、ということなのです。そこで、「死」から自由になる可能性があることが語られるのです。ただ一つ、「不老不死ということではない」という点、注意が必要です。でも、イースターのメッセージは、今、切実に多くの皆さんにお知らせしなければならない大事なことなのだと、葬儀を繰り返しながら、思っています。

ボランティア・ボランティア

富沢児童館

富沢中学校1年 田中 結奈

『トミザワイレブン ～小学校を卒業して～』



学校が終わって、児童館に行くと「お帰り」といつも笑顔で優しく迎えてくれて、いつしか安心出来る場所になり、家族より先に今日あった出来事などを話すようになりました。

インフォメーションの時に出してくれるクイズや本の読み聞かせ、外遊びやトランプ、かるた、折り紙、オセロ...リーダーとたくさん遊びました。時には、友達とケンカしたり、笑ったりなど、児童館には、たくさんの思い出が詰まっています。

地球探検隊は、夏のキャンプ、冬のキャンプが一番の思い出です。他にも探検隊で地下鉄で海に行き定番の「マシュマロ」を焼いたり、ざる川で遊んだりなどもしました。初めて行ったリーダーたちとの探検がきっかけで、小学5年生の時に『トミザワイレブン』に入ろうと思いました。知らない人がたくさんいる中で「私は、みんなのお手本になれるかな？みんなをまとめられるかな？」と不安ばかりでしたが、リーダーたちが優しく教えてくれたので、そこから自分に自信が付き、『トミザワイレブン』として堂々とやって行こうと思いました。

YMCAは凄く良い所です。これからも児童館のボランティアを続けて行きたいです。これからも宜しくお願いします。

『トミザワイレブン』

富沢小学校4～6年生・富沢中学校の児童を対象にした富沢児童館のボランティアグループ。地域の中で敬老会やイベントのお手伝い・児童クラブの野外活動のリーダーとしても活躍しています。

YMCAと私

加茂保育園

保護者 廣谷 香織(母)

ひかり組(5歳児クラス) 夢莉

『私子育てやめました』



なんてちょっとビックリな発言から始めてみます。私達がYMCAにお世話になって11年になります。上の子が2歳の時です。その頃は2番目を出産したばかりで、上の子はイヤイヤ期、考えただけで気が遠くなる組合せ！特に上の子は痲癩もひどく、泣き叫んで転がり回るのは毎日！仕事を終えていつも19時ギリギリに保育園に駆け込んで子供達を迎えに。普通は『ママー♡』って笑顔に走ってくる姿を想像するけど、うちの子供は違います！私に会った瞬間、何か弾け飛んだかのように痲癩三昧！泣き叫びます！それを想像しただけで迎えに行くのが憂鬱...私も抱っこして優しい言葉をかける余裕もなく立ち尽くす...そんな時いつも園の先生方が代わりに優しく包み込んでくれていました...そして親である私にもいつも優しい言葉をかけてくれ、親として残念な姿を見せても絶対否定はせず、いつも理解し温かく見守ってくれました。そして何をしてあげられるかを一緒に考えてくれました。いつもその繰り返しで、気がつく私の子育てにいつも寄り添ってくれていたYMCAの先生方。そんな先生方から自然と、子供に対する姿勢、優しさ、認める大切さ、受け入れる心の広さを学び『親も子に育てられている』の本当の意味を理解しました。3人の母になった今、ようやく、子育て！という言葉に縛られず良い意味で子育てを辞めて、自分も一緒に子供と成長していけばいいんだ!!にたどり着きました。親子関係は一生だけど、親と子でもそれぞれ、人と人だから、認め合って見守って楽しい関係を築いて行く。もちろんまだまだそれは目標で成長段階です。更に短気な私はイライラすることも多いです。『怒らず話す』これを今修行中!!いよいよ今年がYMCAで過ごす最後の1年です(多分)卒園までの間、成長する私達ぶっ飛んだ親子の姿を見守ってください!よろしくお願いします☆

東日本大震災支援対策室 岩佐いちご農園ワーク報告

2018年度、第2回目の岩佐いちご農園ワークを5月13日(日)に実施しました。

今回は富谷市日吉台児童クラブも一緒に活動を行いました。日吉台児童クラブからは、子ども14名、保護者3名、スタッフ3名の合計17名、立町からは、子ども3名、保護者2名、学生(リーダー含む)11名、一般1名、スタッフ3名の総計37名の参加でした。

今回の作業内容は、緑のトレイに白のポットを入れ、そこに土を入れる作業でした。単純作業を子どもたち中心に行い、とてもスムーズに作業が進みました。午後は、早く作業が終わったことでハウス周りの雑草抜きもみんなで行いました。



予定より30分ほど早く作業が終わり、山元町が初めての参加者もいたことから、震災遺構となった中浜小学校の視察を行いました。震災について知らない子どもたちも、遺構を目の前にして感じるものがあって、静かに説明を聞いていました。今回初参加は26名となりました。この4月から大学に入学した学生も多く参加しました。また児童クラブの子どもたちも多く参加しました。この活動が少しずつ広がっていくことを願っています。

(黒田 敦)

幼稚園 「春の遠足」

5月19日、七北田公園で春の遠足を行いました。今年度最初の親子行事です。朝方まで降っていた雨も、遠足の時間にはすっかり晴れ、子ども達の笑顔とともに日差しも出てきました。地図のヒントをもとに、親子でスタンプラリーを楽しみ、その後の自由活動では大きな遊具にもどンドン挑戦し、友だちやお兄さん、お姉さんにも助けをもらいながら楽しむ姿がありました。クラス親睦会後の昼食の時間には会話も弾み、笑顔が溢れていました。クラスの親睦も深め、親子で素敵な思い出ができました。

(佐藤可奈)



南大野田保育園「自然の恵みの中で」

園庭の大きな水たまりを見つけて歓声を上げている子どもたち。水たまりを豪快に踏んで水しぶきを上げたり、泥水をすくっては流す事を繰り返している姿が見られました。子どもたちの表情は、言葉では言い表せないほど輝いていて、真剣そのもの。水の感触や形の変化、水がはじく音を聞き存分に泥水遊びを楽しんでいました。自然の恵みの中で様々な遊びを展開している子どもたちは、まさに遊びの天才。これからも恵みの中で一緒に遊び、楽しい時間を過ごしていきたいと思います。(黒澤路世)



日本ナザレン教団仙台富沢キリスト教会 春ときめき教会の集いご案内

日時 6月24日(日) 10:30～12:30(開場10:00)

内容 教会礼拝、キリスト教とお茶の関係についてお話、煎茶の入れ方教室

6月は、仙台YMCA国際ホテル製菓専門学校おもてなし科担当教員の小林尚美さんをお呼びして特別礼拝と教会の集いを行います。礼拝メッセージやキリスト教とお茶の関係についてのお話を通して、皆様の心と身体に元気が湧いてくることを願っております。

・美味しいお菓子とお茶もご用意。どなたでも参加自由。お子様連れも大歓迎。

・参加費無料(礼拝でのご有志献金を除く)皆様のお越しを心よりお待ちしております。

駐車場は台数に限りがありますので、必要の際はご相談ください。

お問合せ:日本ナザレン教団仙台富沢キリスト教会 仙台市太白区富沢南2-24-11
(小学校・地下鉄車両基地の近く) TEL:022-399-7157

第24回仙台YMCAインターナショナル・チャリティーラン2018

今年度も、以下の日程でチャリティーランを行います。チャリティーランは、心身に障がいのある子どもたちを支援し、同時にこの活動を通して、「真に豊かな社会」への関心が高まることを願うものです。大会は全てボランティアによって運営され、収益金は全額YMCAが実施している障がい児プログラムの支援金として用いられます。詳細は、後日ご案内いたします。みなさま、ぜひご参加ください。

日 程 9月23日(日・祝)
会 場 東北学院大学泉キャンパス

《夏休み サマースクール》のご案内

日 程 : 8月17日(金)~20日(月) 4日間
時 間 : 10:00~15:00
場 所 : 仙台YMCA教室
対 象 : 小学1年生から6年生
講 師 : 村田洋子先生

サマースクールは「油絵教室」の“番外編”と言える教室です。以前あったアートクラスのように、工作や絵を描く事を目的の一つとしています。つまりヒトが音楽や文学、または、演技や踊ったりする心の“自由表現”として、最も心豊かな世界を楽しみながら、子どもの情操を養えたらと思い開催しています。また、現代の世界はグローバルな環境の中で世界と繋がりながら、今日の事や、未来の事を考える事がますます必要とされています。未来を自分力で、切り開ける土台として、ちょびり世界の事や、地球や自然について学びます。夏休みは子どもたちの元気な体を作るのにとても良い機会です。そして、お盆や旅行をとおして社会勉強をする機会でもあります。長いお休みに、子どもたちは多くの体験をしながら、とてもたくましく成長する時期でもあります。そのような予定の中に、どうぞ《サマースクール》の創造力と、想像力を養う4日間を入れてくださいますようお願いいたします。

朝10時から、午後3時までのプログラムの中で、創造の時間と、地球や世界の事を学ぶ時間がありますが、お昼の食事も、協力しながら子どもたちが作ります。今年は、「日本の四季と食事」を作ります。国際化が叫ばれていますが、朝、お味噌汁は飲んでいませんか？その国には、その国で伝えられた食事があります。「日本食」が世界の中で注目されています。食べてはいけない食べ物が伝えられて久しいです。何を注意しなければいけないかも学びます。

マナーが人を作るとも言いますが、食が人を造るとも言います。味覚や栄養が人の性格を左右するという研究も進んでいます。簡単だけど美味しい日本食の実践体験も教室の目的の一つです。お水の補給用の水筒とタオルと三角巾とエプロンを持ってご参加ください。今年は5回目となるサマースクールです。楽しい“山学校”へどうぞ！

維持会員 (2018年4月27日~5月31日)
維持会費によるお支えに心より感謝いたします。

A会員/10,000円 B会員/20,000円 C会員/30,000円

継続A会員

加納 実 門脇秀知 今井克彦 相沢光哉 稲井慶子 中島 恵
松沢 等 岡 久雄 三浦龍昌 田村治之 織田信夫 小原 拓
鈴木繁雄 寺山洋士 吉田一恵 今野 明 高篠伸子 小林正一
南澤一右 本野日出子 小山由紀子 阿部順子

継続B会員 光永尚生 岸田清実 原田 享 飯島隆輔 菅野 健

継続C会員 阿部 靖 工藤正剛 清水弘一 橋本 章

法人会員

A会員/10,000円 B会員/30,000円 C会員/50,000円
D会員/100,000円

継続A会員 (有)佐々木保険事務所
(株)ヒルズエステート
(有)かんの美容室

仙台YMCAではYMCAを支えていただける維持会員を随時募集しております。
《お問合せ》本部事務局 Tel:022-222-7634 Fax:022-222-2952

仙台YMCAジュニアクラブ 夏プログラム

＜集中水泳＞

6月15日(金) 10:00~ 申込受付開始

期	日 程	クラス	時 間	対象・ワッペン	バ ス	バスコース
I 期	7月24日(月)~28日(金)	SS-1	9:00~10:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	①④⑧
		SS-2	10:30~11:50			③⑥⑩
		SS-3	14:30~15:50	ワッペン/クラゲ〜サンマ	②⑤⑪	
		幼児フェスティバル①	14:40~15:30	2歳~年長	ワッペン/カニ〜タコ※1	②⑤⑪
		SS-4	16:00~17:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	①④⑭
II 期	7月31日(月)~8月4日(金)	SS-5	9:00~10:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	①④⑤
		SS-6	10:30~11:50			③⑧⑩
		SS-7	14:30~15:20	ワッペン/クラゲ〜サンマ	①⑥⑭	
		幼児フェスティバル②	14:40~15:30	2歳~年長	ワッペン/カニ〜タコ※1	①⑥⑭
		SS-8	16:00~17:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	②⑩⑪
III 期	8月7日(月)~11日(金・祝)	SS-9	9:00~10:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	①④⑤
		SS-10	10:30~11:50			③⑩⑭
		SS-11	14:30~15:50	2歳~中学生 ※2	①②⑥	
		SS-12	16:00~17:20	3歳6ヶ月~中学生	④⑧⑪	
IV 期	8月14日(月)~18日(金)	SS-13	9:00~10:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	①④⑥
		SS-14	10:30~11:50			①⑤⑩
V 期	8月20日(月)~24日(金)	SS-15	9:00~10:20	3歳6ヶ月~中学生	ワッペン/カニ〜クジラ	①④⑪
		SS-16	10:30~11:50			②⑥⑩

※1 幼児フェスティバルは、YMCA水泳ワッペンお持ちの方も、初めての方も、どなたでもお申込みいただけます。

※2 SS-11参加の2歳~3歳6ヶ月未満の方は、YMCAワッペンをお持ちの方に限ります。

＜運動クラブ＞

期	日 程	クラス	時 間	対 象	バ ス
I 期	8月13日(月)~17日(金)	幼 児①	10:40~11:30	年少~年長	①・⑤・⑩
		小学生①	9:20~10:20	小学1年生~小学3年生	①・④・⑥
II 期	8月20日(月)~24日(金)	幼 児②	13:30~14:20	年少~年長	なし
		小学生②	10:40~11:40	小学1年生~小学3年生	②・⑥・⑩
		鉄棒・跳び箱	9:20~10:20	小学3年生~小学6年生	①・④・⑪

みなさんの参加をお待ちしています！
詳しくはYMCAまでお問い合わせください。

YMCAジュニアクラブ
TEL 022-222-7533